

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子潮見保育園
施設所在地	東京都江東区潮見1-28-8ベイフレール潮見2、3階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本の世界から広がる保育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日々の日常の中で絵本に興味を強く示し、子ども同士絵本を見せ合ったり絵本について話す姿が多く見られている。また、当園は特色として世界一絵本の多い保育園を目指しており、巡回絵本の制度や絵本コーナーという絵本のお部屋が用意されていることから多くの絵本を手にとる機会があり、子どもの日常的な生活の中に密接に関わっている為、このテーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

### ●自然

5月～6月：戸外活動で興味を探る。

5月：「ぼく、だんごむし」「だんごむしそらをとぶ」の絵本を読み合い。

絵本で得た情報を元にダンゴムシを探しに行く。保育園に持ち帰り飼育開始。

6月：マイクروسコープやルーペ、図鑑を用意。研究コーナーを設置。

観察結果を製作で表現。

7月～8月：戸外活動で生き物や自然物の観察と探求。

7月1日：NPO法人ネイチャーリーダー江東の阿河先生来園。さざなみ公園のビオトープで水の生き物について学ぶ。

11月18日：NPO法人ネイチャーリーダー江東の阿河先生来園。さざなみ公園にて秋の自然物探索を行う。

11月：保育士と子どもで振り返り。

### ●色

6月：保育室に絵の具コーナー設置を設置。

「なにをたべてきたの？」の絵本を読み合い。

6月～7月：絵の具を混ぜ合わせ色が変化する過程を観察。

8月：スパッタリングやマーブリング、はじき絵、色水等を活動に取り入れる。様々な技法や混色を探求。

9月：オリジナルの色を作り出し絵を描く。

保育士と子どもで振り返り。

### ●再現

7月：「3匹のこぶた」の絵本を読み合い。絵本に出てくる煉瓦の家を再現。→劇ごっこに発展。

8月：保護者に呼び掛け廃材を集める。廃材コーナー設置。

8月～9月：ごっこ遊びの道具や絵本で見た内容を製作で再現。

9月18日：幼児クラス全体で「ロボットカミイ」の絵本を読み合い。異年齢児のグループを作りロボット製作。

グループごとに振り返り。

### ●表現

7月～8月：リトミックやなりきり遊びから興味を探る。

8月6日：「第56回幼児の劇遊び夏期講習会」に担任が参加し遊びの展開方法や表現について学ぶ。

9月：「三匹ヤギのガラガラドン」の絵本の読み合い。→劇ごっこへと発展。

9月16日：劇遊び講師の尾根先生来園。担任が活動を展開しアドバイスをいただく。

9月～10月：アドバイスを参考に劇ごっこやなりきり遊びを継続。

10月14日：劇遊び講師の尾根先生来園。先生が見本となり活動を展開。発表会に向けてのアドバイスもいただく。

11月：発表会の題材である「どうぞのいす」の絵本を読み合い。

11月～12月：どんな役をやってみたいか、どんな動きにするか話し合う。

オリジナルの「どうぞのいす」のお話が出来上がる。

12月20日：クリスマス発表会で披露。

12月：保育士と子どもたちと振り返り。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

◎自然
・ルーペ、図鑑(虫)、マイクロスコブ、顕微鏡を購入→生き物の観察と研究に使用。
・保育室に飼育コーナー設置→飼育ケースとダンゴムシの絵本を用意し観察に使用。
◎色
・スパッタリング、マーブリングを購入→様々な技法を探究する為に使用。
・キャンバスボード、絵画作品乾燥棚を購入。→自分で作り出した色で絵を描き、保管する為に使用。
・保育室に絵の具コーナー設置→絵の具、筆、パレットを用意し自由に色の研究をできるようにした。
◎再現
・保育室に廃材コーナー設置→家庭から持ち寄った廃材やセロハンテープ、ペン、クレヨン等を用意し、自由に製作できるようにした。
◎表現
・劇遊び音楽セットを購入→劇ごっこで使用。

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

◎自然
①戸外活動にてダンゴムシに興味を示す。帰園後に図鑑を用いてダンゴムシについて調べる。
②保育者が「ぼく、だんごむし」「だんごむし そらをとぶ」の絵本を読むと「育てたい」との声が挙がる。
③実際にダンゴムシを探しに行き園に持ち帰る。クラスで飼育開始。
④育てるには何が必要か図鑑を用いて調べる。公園へ行き落ち葉や土を探し持ち帰る。
⑤毎日観察し友だちや保育者と意見交換をする。ルーペやマイクロスコブを用いて細部まで観察。
⑥観察結果を製作にて表現。また飼育を通しての学びを作品と共に共有し合う。
◎色
①保育室に絵の具コーナーを設置。混色に興味を示す。
②保育者が「なにをたべてきたの？」の絵本を読む。絵の具を混ぜ合わせてどんな色になるのか研究する。
③スパッタリングやマーブリング、はじき絵、色水等を用意するとそれぞれの道具の技法を学ぶ。
④好きな道具とオリジナルの色で絵を描く。研究結果を振り返る。
◎再現
①保育者が「3匹のこぶた」の絵本を読むと「レンガのお家を作りたい」との声が挙がる。
②保育園にある新聞紙と牛乳パックで再現。手作りのレンガの家を使用して劇ごっこへと発展。
③劇ごっこを進める中で「他にも作りたい」との話になる。どんな材料が必要か考え、家庭からも持ち寄る。
④保育室に廃材コーナー設置。自由に製作活動に取り組む。
⑤幼児クラス全体で「ロボットカミイ」の絵本を読み合い。→ロボット作りへと発展。
⑥異年齢児のグループを作り、意見交換をしながら製作を行う。
⑦完成後、グループごとに完成品と共に工夫した点を発表。
◎表現
①劇遊びの講習会に担任が参加し学ぶ。
②「三匹ヤギのガラガラドン」の絵本の読み合い後、劇遊びへと発展。
③劇遊び講師と劇遊びやなりきり遊びを行う。活動を通して自分だけでなく友だちの表現にも興味を持つ。
④意見交換をしながら劇遊び、なりきり遊びを継続。
⑤発表会の題材である「どうぞのいす」の絵本を読み合い。
⑥どんな役をやってみたいか、どんな動きにするかを話し合う。→オリジナルの「どうぞのいす」のお話が完成。
⑦クリスマス発表会で披露。

## <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

全員が共通して興味のある絵本をテーマに活動を広げたことで自然と子どもたち自身で探求をする姿が多く見られた。子どもたちが戸外活動時に虫や草花に興味を持って観察を楽しむ姿から保育者が保育室に自然に関する絵本や図鑑を設置したり一緒に読む機会を設けることによって、さらに興味が広がり「ダンゴムシを育てたいから連れて帰ってもいい?」と子どもから提案があり、虫の飼育や探求が深まっていった。保育室に虫の観察コーナーを設置することによりルーペや顕微鏡を使って細部まで研究するようになった。また、戸外活動時に手持ち図鑑を使用したことで自然物にも興味を持ち「この写真と一緒にのお花だね」「これはなんて書いてあるの?」等、自発的に調べたり疑問に思ったことを積極的に保育者に聞くようになった。

また採取した花を使って色水を作ってみると「ジュースみたいでキレイだね」「ジュース屋さんにしよう」との発言があり保育室に絵の具コーナーを設置。遊ぶ中で「紫色になったよ!」と色の混ざり合いにより別の色に変化することに気付いた。混色に関する絵本の読み合い、混色表の掲示、様々な道具を用意したことで色についての探求が深まっていった。

ジュース屋さんごっこをきっかけにごっこ遊びが盛り上がっていった。その中で「三匹のこぶた」の絵本を読み合うと煉瓦の家作りへと発展。身の回りの物や絵本に登場した物を工作で再現するようになった。「牛乳パックで作ったら良いかな?」等、どのような材料が必要か話し合いながら進めていった。道具が完成するとそこからは表現遊びに繋がった。外部講師の方から学んだ表現遊びを子どもたちと実践する中でだんだんと想像力が豊かになっていった。また他者とイメージを共有し互いの考えを認め合う中で、のびのびと自己表現を楽しむ姿が見られるようになった。表現遊びはクリスマス発表会へと発展。たくさんの人に認められたことで大きな自信になったと感じる。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

以前から絵本に興味があり読み合うことは多くあったが活動へと繋がることは少なかった。また様々な物事に興味を持ち「これはなに？」と疑問を持つが継続した探究活動にはならずそのまま次の活動へと移ってしまうことが多かった。

今回子どもたちの姿から興味のある絵本を選び、活動の導入として活用したが、言葉だけで説明するよりも視覚からの情報もありイメージがしやすいようだった。イメージが持ちやすいことで子どもたちの活動への期待感も高まり、主体的に参加するようになった。

絵本をきっかけに「なんでだろう」「やってみたい」等の声が聞かれるようになり探究活動へも繋がっていった。またその日限りの活動で終わらせるのではなく、繋がりを意識して発展させていくことで探求や活動が深まっていった。

そして色や自然等、全体のテーマは全員共通しているが、疑問に思うことや探求方法はそれぞれ異なるので、少人数のグループにしたり、十分に活動を時間を設けたり等の配慮を行ったことで無理なく一人ひとりが活動と向き合うことができたと感じる。

今回の取り組みを通して絵本とは活動や遊びへの展開だけでなく、子どもの心の育ちや社会性を育むための重要な役割を担っていることが分かった。そして子どもたちの疑問を引き出すような声掛けや探求が深まるような環境設定等、保育者の関わりも大きく影響してくることを改めて感じた。

今後も保育に絵本を取り入れていく中で、遊びや活動の世界を広げていくと共に、子どもたちの想像力や思考力、自ら学ぶ力等の育ちも促していきたい。